



2020年度 年主題「こころが満たされる」	
0・1・2歳児 9月主題 「あそぼう」 月のねがい ◎保育者の祈りや賛美を通し、神さまを感じる(0) ◎探索活動を楽しむ(0) ◎安心できる環境の中で、遊ぶ楽しさを知る(0) ◎保育者や友だちと一緒に聖書のお話を聞く(1.2) ◎いろいろなことに興味関心を持ち、試そうとする(1.2) ◎保育者や友だちと応答し合う楽しさを知る(1.2)	3・4・5歳児 9月主題 「友だちとともに」 月のねがい ◎夏の生活も神さまに守られていることを感謝し、礼拝する(3) ◎友だちと一緒に遊び、楽しさや難しさを経験する(3) ◎自分の経験や思いを伝える楽しさを知る(3) ◎神さまがくださった平和を考え、祈る(4.5) ◎夏の経験が喜びとなり、友だちに伝えたり、イメージを共有しながら共に遊ぶことを喜ぶ(4.5) ◎うつろいゆく自然の変化に興味を持ち、その中で心を動かして過ごす(4.5)



つめた〜い、気持ちいい！感触遊び

今年の夏はいかがお過ごしでしたか？新型コロナウイルスの感染が心配される日々ですが、園ではプール遊びをしたり、虫を捕まえたりと、例年どおり暑い暑い夏を元気に楽しみました。

0・1・2歳児クラスでは、担当の職員全員で、その月の振り返りをしています。一人ひとりの心や体の育ち、遊びに向かう姿、友だちとの関わりなどを話し合い、翌月のねらいをみんなで設定していきます。保育者同士で子ども一人ひとりに対してのいろいろな思いや気づきを話し合えるとても大切な時間です。

7月の振り返りでは、夏だからこそできる遊びや感触遊びをたくさんしていきたい！という提案もあり、水遊びや片栗粉遊びなどそれぞれのクラスで楽しみました。もっとダイナミックに楽しもうということで、0・1・2歳児で合同で感触遊びを計画しました。寒天、氷風船、泡、スライムの4つのコーナーを準備し、好きなコーナーを選んで楽しめるようにしました。スライムの感触がやみつきになり、丸めて、伸ばして、手に乗せ、気づけば30分以上も夢中になる子もいました。泡コーナーでは、2歳児が泡立て器で混ぜていると、1歳児も真似してみたり、水を泡で洗うと、それも真似して「あわあわー！」と見せ合う姿もありました。氷風船コーナーでは、初めは「つめた〜い」と丸い氷風船を楽しみ、溶けてくるとそれを割って驚き、最後は冷たい水のたらいに足を入れて大はしゃぎでした。それぞれのコーナーで五感を刺激されながら、思い切り遊ぶことができました。異年齢での関わりも、6月の合同保育より多くみられて嬉しく思うことでした。何より子どもたちの笑顔がたくさん見られて幸せなひとときでした。

あっという間に8月が終わり、2学期が始まります。来月の運動会では『海賊』をテーマに、少しずつ運動会のお稽古を始めます。身体を動かす楽しみ、友だちと力を合わせる大切さを感じられたらと思います。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

大河



今月の聖句 「私の目にはあなたは高価で尊い。」

イザヤ43:4

私たちが生きている世界には、様々な愛があります。一つは「ものの愛」です。条件付きの愛だと言い換えることも出来ます。理想の結婚相手は3K(高学歴・高収入・高身長)だと言われたものですが、今では4T(低姿勢・低リスク・低燃費・低依存)だそうです。二つ目は「だから愛」です。これは、理詰めの愛、相手を利用する愛です。親が自分の夢を子に背負わせたり、将来のための保険のように育てる、といったことです。三つ目は「にもかかわらずの愛」です。本当はこうしたい、ああしたい、しかし、そういう自分の思いよりも相手の思いを尊重して行動するのがこの愛です。この愛はこの世に存在する愛の中で、最も優れた理想的なものと言えるでしょう。

けれども、神さまの愛はその三つを凌駕します。なぜならば、神さまの愛は「そのままに愛する」愛だからです。「わたしの目には、あなたは高価で尊い」という聖書の御言葉は、私たちのことを「そのままに愛する」神さまの約束の言葉であり、恵みと祝福に満ちた言葉です。人の目にどう映ろうと、神さまの目には違って見えている、それが私たち一人一人なのです。この約束の御言葉を硬く心に抱き、揺れ動くこの世の価値観に左右されない人は、どれほど強く、豊かで、幸いなことでしょうか。

西之表基督教会協力牧師 池田基宣



9月の行事予定

1日(火)	始園式(1号:午前保育)
3日(木)	8・9月誕生会
7日(月)	秋フェス(こすもす)
8日(火)	〃(あじさい・すみれ)
10日(木)	〃(たんぼぼ)
11日(金)	シオン米脱穀
24日(木)	運動会実行委員会(P役、長・副)
25日(金)	運動会予行練習・弁当日
30日(水)	弁当日

10月の行事予定

3日(土)	運動会(雨天時:種子高体育館)
4日(日)	運動会予備日(雨天時:市民体育館)
5日(月)	振替休日
7日(水)	いもほり(予定)
14日(水)	牛見学
28日(水)	すもう大会(年長・年中)弁当
29日(木)	〃(2・3歳児)

利用料見直しのお知らせ

現在の利用料額は、H30.1~12期の所得額によって算定されております。H31.1~R1.12期の市民税額における階層の変動に伴い、市による利用料の見直しが行われます。

9月分より保育料が変更になる世帯もありますので、市より送付の利用料決定通知書でご確認ください。

新スタッフ紹介

子ども園に新しくスタッフが仲間入りしました。笑顔のステキな先生たちです。どうぞ宜しくお願いします！

かねがえ めい そぎ あさみ ひだか ななみ



「人としての価値」〜愚直に生きる〜

コロナ禍に翻弄されつつ迎えた夏休み期間でしたが、今のところ種子島では感染者も無く、無事に2学期を迎えられそうです。そんなに出張も帰省も台風の影響も無い、静かでひとやすら八月は小生も初めてのことでした。

世界的なシエフの一人に三國清三(みくにきよみ)という方がおられます。三國シエフは、貧しかった子どもの頃、初めて食べたハンバーガーの味が忘れられず、料理人になりたいと決心し、中学卒業後、夜間の調理師学校を経て、「札幌グランドホテル」で修業をはじめました。そこでの最初の仕事は「従業員食堂の飯炊きの手伝い」です。彼は、「どぶ掃除でも何でもする」という思いで仕事に取り組み、飯炊きが終わったあとも、宴会場の皿洗いを一手に引き受けました。社員寮にはほとんど帰らず、厨房に残って、毎晩、料理の練習をしたそうです。そして、十八歳のとき、料理長補佐としてステーキワゴンを任せられるまでに成長しました。子どもの頃の「初心」を果たしたのです。その後、札幌を離れて上京し、「帝国ホテル」で働くことになりました。しかし、帝国ホテルでは、「洗いのアルバイト」のひとりになります。しかも、二年経っても正社員にはなれず、北海道に戻ることも考えましたが、「たとえ戻ることになっても、日本一のホテルの洗い場を担当した者として、ホテルの鍋を全部、自分の手でピカピカに磨いてから去る」と誓い、「ホテルにある十八のレストランの洗い場をすべて手伝わすから、お金はいらさない」と直訴。それから毎晩、自分の仕事が終わってからも、すべてのレストランを回り、鍋を磨いたそうです。そうして三ヶ月ほど経った頃、「料理人の神様」と称されている帝国ホテルの村上信夫料理長から、思いもよらない提案を受けることになりました。料理長は、「帝国ホテルの社長から『六百名の料理人の中で、いちばん腕のいい者を、ジュネーブの日本大使館のシェフに推薦してくれ』と言われ、君を推薦した」と言われて、社員でもなく、一度も料理を披露していない、「一介のアルバイト」を大役に抜擢したのです。三國シエフは、どのような仕事でも、自分の信念に従い、腐らず、自分のやるべき仕事を愚直に続けました。村上料理長は、そんな彼の「ひたむきさ」と、愚直に努力を続ける「心の強さ」に気づいていました。野心や、評価や、私欲に心を動かされず、ただひたすらやり続けた結果として大きな道が開けたのです。ただひたむきの目には、あなたは高価で尊い、いつもありのままに愛してくださる方の存在を信じて歩める人生は幸いだと思えます。

二学期の行事は、状況によっては中止や短縮を余儀なくされるかも知れません。職員一同で知恵を絞って、出来る限りの環境を整えて経験を担保していきたいと願っております。まだまだ残暑が厳しい毎日ですが、そろそろ夏の疲れも出てくる頃です。早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチで、親子共々元気な気持ちでいきましょう。行事の多い二学期も引き続きご協力をお願い致します。

園長

子ども理解と支援(合同園内研修)

子ども集団の中で、子どもが自分のやりたい遊びを見つけ、友だちと楽しく遊ぶ力を獲得するために、その基礎となる育てたい力について、中種子養護学校の伊瀬知先生から学ぶ機会を与えられました。

- ①愛着の形成
- ②人に対する基本的信頼関係の獲得
- ③基本的な生活習慣の確立
- ④十分な自己発揮と他者の受容による自己肯定感
- ⑤道徳性や社会性の芽生えとなる遊びを通じた子ども同士の体験活動の充実

幼児期は、体と頭を使って遊ぶ事によって、体の機能が発達し他者との関係が育まれていきます。『面白そう。やってみよう』と心が掻き立てられ動き出す。その時集団の中では、自分とは違う他者の存在を感じ、葛藤しながら園生活を送っています。その中で物の取り合いや、順番等が我慢できずに

トラブルになることも多々ありますが、その生の葛藤を大事にしたいと思っています。集団という社会の中でルールがあることを知り、どうしたらそのルールを納得し自分のこととして受け入れ、折り合いをつけていけるか。また、体と心で受け入れることができるか等を、子どもに関わる私たち大人と一緒に考え、望ましい行動につなげていけるよう、日々の保育を振り返り、支援の仕方を学んでいきたいと思いました。

例年この時期に参加している様々な研修会も、コロナ禍でほとんど中止になってしまい残念でしたが、様々なテーマで講師をお呼びしての園内研修や自主研修を実施することができました。今後も創意工夫を重ね自己研鑽に励んで参ります。

